

1 正常仕損を考慮しない場合の原価標準を算定し、完成品と月末仕掛品などの原価を算定します。
製品Xの原価標準(正常仕損を考慮しない場合)

原料費	@()円	X	()kg	=	@()円
直・労	@()円	X	()時間	=	@()円
製・間	@()円	X	()時間	=	@()円
製品X 1個あたりの標準製造原価	<u>@()円</u>				

2 正常仕損を考慮する場合の原価標準を算定し、完成品と月末仕掛品などの原価を算定します。
製品Xの原価標準(正常仕損を考慮する場合)

原料費	@()円	X	()kg	=	@()円
直・労	@()円	X	()時間	=	@()円
製・間	@()円	X	()時間	=	@()円
製品X 1個あたりの正味標準製造原価	<u>@()円</u>				
正常仕損費	<u>@()円</u>				
製品X 1個あたりの総標準製造原価	<u>@()円</u>				

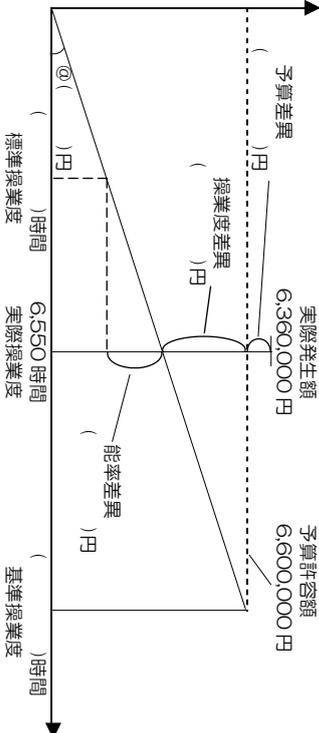
3 原価差異の分析

1. 生産データの整理		50%	完	5,400
初原加	()	290		
当原加	()			
異・仕原加	()	100%		
末原加	()	50%		300

2. 原料数量差異 @80円×(5kg×()個-32,000kg)=()円

3. 作業時間差異 @1,200円×(1.1時間×()個-6,550時間)=()円

4. 製造間接費差異(固定予算)



4 サイアスことこの生産データを整理し、生産数量比率の相違に起因する差異と純粋な差異に分けて細分析します。
1. 生産データの整理

Sサイアス		Mサイアス	
初原加	50% 150	初原加	50% 140
当原加	()	当原加	()
異・仕原加	()	異・仕原加	()
末原加	50% 120	末原加	50% 180

2. 原料数量差異 @80円

生産数量比率の相違に起因する差異	()円	純粋な数量差異	()円
	()kg		()kg

3. 作業時間差異 @1,200円

生産数量比率の相違に起因する差異	()円	純粋な作業時間差異	()円
	()時間		()時間

4. 製造間接費能率差異 @ ()円

生産数量比率の相違に起因する差異	()円	純粋な製造間接費能率差異	()円
	()時間		()時間

5 サイアスごとに原価標準を設定した場合の完成品と月末仕掛品の原価を算定します。
サイアスことこの原価標準

Sサイアス		Mサイアス			
原料費	@()円	X	()kg	=	@()円
直・労	@()円	X	()時間	=	@()円
製・間	@()円	X	()時間	=	@()円
製品X 1個あたりの正味標準製造原価	<u>@()円</u>				
正常仕損費	<u>@()円</u>				
製品X 1個あたりの総標準製造原価	<u>@()円</u>				

合格アシストノート

第1予想 原価計算

1. 単純投下資本利益率

単純投下資本利益率 = $\frac{1 \text{年あたりの利益額}}{\text{投資額}}$

A案: $\frac{(\quad) \text{万円} \div 4 \text{年}}{(\quad) \text{万円}} = (\quad) \%$

B案: $\frac{(\quad) \text{万円} \div 4 \text{年}}{(\quad) \text{万円}} = (\quad) \%$

C案: $\frac{(\quad) \text{万円} \div 4 \text{年}}{(\quad) \text{万円}} = (\quad) \%$

2. 単純回収期間法

1. 年度末ごとの回収累積額

	1年度	2年度	3年度	4年度
A案 { 年々のCF	200	200	200	1,300
回収累積額	200	400	600	1,900
B案 { 年々のCF
回収累積額
C案 { 年々のCF
回収累積額

2. 回収期間

A案の回収期間 = ()年 + $\frac{(\quad) \text{万円} - (\quad) \text{万円}}{(\quad) \text{万円} \div (\quad) \text{年度の回収額}}$ = ()年

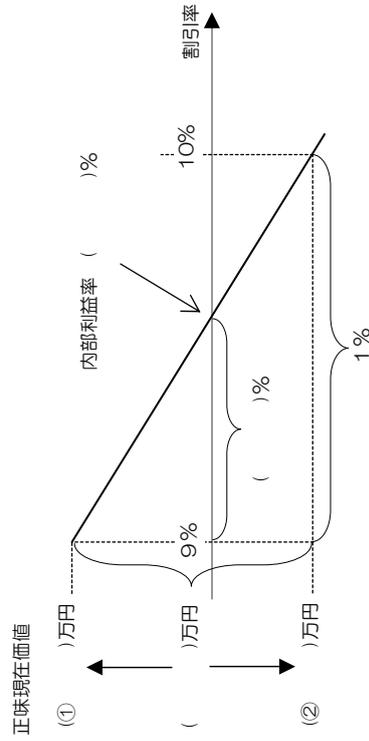
B案の回収期間 = ()年 + $\frac{(\quad) \text{万円} - (\quad) \text{万円}}{(\quad) \text{万円} \div (\quad) \text{年度の回収額}}$ = ()年

C案の回収期間 = ()年 + $\frac{(\quad) \text{万円} - (\quad) \text{万円}}{(\quad) \text{万円} \div (\quad) \text{年度の回収額}}$ = ()年

3. 内部利益率法

内部利益率は正味現在価値がゼロとなる割引率を意味するので、グラフの横軸(割引率)からもっとも有利な投資案を読み取ります。そして、補間法により、もっとも有利な投資案である()案の内部利益率を計算します。

内部利益率 = $(\quad) \%$ + $\frac{(\quad) \text{万円} - (\quad) \text{万円}}{(\quad) \text{万円} - (\quad) \text{万円}} = (\quad) \%$



合格アシストノート

第1予想 原価計算

正味現在価値の計算

9%のとき: $\Delta(\quad) \text{万円} + 0.917 \times (\quad) \text{万円} + 0.842 \times (\quad) \text{万円} + 0.772 \times (\quad) \text{万円}$

10%のとき: $\Delta(\quad) \text{万円} + 0.909 \times (\quad) \text{万円} + 0.826 \times (\quad) \text{万円} + 0.751 \times (\quad) \text{万円}$

4. 正味現在価値法

まず、割引率として加重平均資本コストを求め、それにもとづいて正味現在価値を算定します。

1. 加重平均資本コスト

調達源泉	構成割合	資本コスト	加重平均資本コスト率
負債	50%	4% × (1 - 40%)	() %
株式	30%	8%	() %
留保利益	20%	7%	() %
合計	100%		() %

2. 正味現在価値

1. 算定した割引率における正味現在価値がもっとも大きい投資案をグラフから読み取り、その値を計算します。
 $\Delta(\quad) \text{万円} + (\quad) \text{万円} \times (\quad) \text{(年金現価係数)} = (\quad) \text{万円}$

計 算 用 紙

半分に切ってお使いください

計 算 用 紙

半分に切ってお使いください